

平成29年度 第4回沼田市子ども・子育て会議 会議録（概要）

会議の概要

開催日時	平成30年2月21日（水） 午後1時から3時
開催場所	沼田市保健福祉センター 3階研修室
出席者 ◎会長 ○副会長	<p>【委員】 荒木委員、大城委員、小淵委員、○榎淵委員、◎小林委員、田中委員、 田辺委員、鶴見委員、中野委員、庭野委員、藤巻_亜委員、藤巻_貞委員、 松井委員、森村委員</p> <p>【市関係者】 角田健康課長、入澤学校教育係長</p> <p>【事務局】 小池子ども課長、青柳子育て支援係長、見城保育係長、金井副主査</p>
次第	<p>1 開 会 2 あいさつ（会長） 3 議 事 (1) 沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（案）パブリックコメント（意見公募）の実施結果について (2) 沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（最終案）について (3) 専門委員会の設置について (4) 次期計画策定のスケジュールについて (5) その他 4 その他 5 閉 会</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（最終案） ・ 沼田市子ども・子育て会議専門委員会設置運営要綱 ・ 沼田市子ども・子育て会議 今後のスケジュールについて（案） ・ 「子ども広場」移転整備について ・ リーフレット「ハタチからの参考書」

議事要旨

発言者	議事の経過及び発言の要旨
会 長	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>会 長</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（案）パブリックコメント（意見公募）の実施結果について</p> <p>(2) 沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（最終案）について</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料1「沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（最終案）について」により説明】</p> <p>前回子ども・子育て会議でいただいた意見をもとに修正した案により、1月15日から2月14日にパブリックコメントを行った。</p> <p>修正箇所は、5ページと6ページの「保育所（園）など」の計画数値の表の下段に、参考値として企業主導型保育事業の地域枠定員数を記載した。総数40人で定員が設定されているため、3～5歳児と0～2歳児の内訳については、利用人数による按分により算出した。各年度の進行管理の際には、実利用人数を参考数値として示す予定である。もう1点、病児・病後児保育事業について、実績と量の見込みに差があるので下方修正をすべき、という意見をいただいたが、潜在的なニーズを踏まえ平成30、31年度の実績に基づき次期計画において数値を精査することとし、今回は修正なしとた。</p> <p>パブリックコメントを実施した結果、意見等の受付はなかったため、最終案をもとに、「沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し」として決定する方向とし、今後は見直し後の計画に基づき事業を進めていくことになる。</p>
会 長	<p>事務局説明について意見・質問をいただきたい。</p>
会 長	<p>平成30年度における沼田市の待機児童はどんな状況か。</p>
事務局	<p>現在調整中であるが、平成30年4月1日現在の待機児童は出ない見込みである。</p>
会 長	<p>特に意見がなければ、本案を沼田市子ども・子育て支援事業計画中間期の見直し（最終案）とすることよろしいか。</p> <p>(意義なし)</p>

(3) 専門委員会の設置について

会 長 前回の子ども・子育て会議で、引き続き専門委員会を設置することを確認した。委員構成等については今回の会議で提示することとなっている。事務局から説明をお願いする。

事務局 【資料2「沼田市子ども・子育て会議専門委員会運営要綱」により説明】
委員構成については、設置運営要綱第2条に基づき、子ども・子育て会議の委員より10名以内とし、子ども・子育て会議に諮り会長が委嘱することとなっている。前回までの委員構成に基づき保護者6名、事業者4名による委員構成案をお示ししたので、案のとおりでよろしいかどうかご確認をお願いしたい。

審議事項については、「子ども・子育て会議専門委員会における審議事項」の「2 子育て世帯が安心できる教育・保育環境の整備について」と「3 公・私立施設の機能（役割）について」について、主に審議を進める予定であるのでご確認願いたい。

会 長 事務局説明について質問・意見をいただきたい。

委 員 前回の委員構成では企業主導型保育の事業者は入っていなかったが、将来的に事業者が増える可能性があると思うので、ひだまり保育園について、企業主導型保育事業者の代表ということで入れていただけないかどうか、ご検討願いたい。

会 長 設置運営要綱の改正が必要となる。

委 員 もう1点、医療的ケア児など、発達支援を必要とする子どもたちの障害児保育の事業を始めたが、対象児の保護者や事業所においても情報の共有が必要と考える。委員構成について、少し視野を広げて、委員の人数、参加母体の見直しをしてはどうか。

会 長 特別支援学校の高等部の開設も予定されている中で、考えていかなければならないことである。いただいた意見を踏まえ、事務局と正副会長で再検討し、次回会議において、委員構成案を再度提案することによろしいか。

また、審議事項についても、「困難を抱える子どもたちへの支援」という内容を加えた上で改めて提案することによろしいか。

(異議なし)

会 長 医療的ケア児など、支援の必要な子どもたちへの対応窓口はどこか。

事務局 社会福祉課になると思われるが、健康課、子ども課、学校教育課など、多くの部署による連携が必要である。

会 長 発達支援を含めた子育て支援について協議・検討する機会を設ける必要があるのではないか。広い角度で検討していきたい。子ども課が中心になって、関係各課の取組を整理しながら、検討を進めることでよろしいか。

(異議なし)

(4)次期計画策定のスケジュールについて

会 長 事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料3「沼田市子ども子育て会議 今後のスケジュールについて（案）」により説明】

現計画は平成27年度から平成31年度からの5年間となっており、平成32年度からは第2期計画となる。第2期計画の策定は平成31年度となる予定だが、現時点では国から指針が示されていない状況である。現計画の策定に当たっては、平成25年度にニーズ調査を実施した。第2期計画策定に当たっても、現計画と同様にニーズ調査を実施することを前提に、平成30・31年度のスケジュールを作成した。詳細は国の指針が出たところで改めてお示しするが、現状ではこのようなスケジュールが考えられるということで、ご確認いただきたい。

会 長 内閣府の指針が示されるのは、恐らく今年の夏頃になるのではないかと。内閣府の動きをみると、待機児童の解消という量の問題に加えて、子どもの貧困問題が深刻化する中で、指針の策定に時間がかかっている印象である。

事務局 国の指針に合わせて、策定スケジュールについても変更があり得るのでご理解いただきたい。

副会長 前回のニーズ調査にかかった経費はどのくらいか。

事務局 委託料として200万円弱であったが、会議支援などの費用も含めた金額である。

副会長 前回のニーズ調査で出た数字の一部が使えないという課題があったと記憶している。費用をかけて調査を実施するからには、国の指針だけでなく、そうした課題についても配慮した上で実施されたい。

会 長 今回の計画見直し作業でも、ニーズ量と実績の乖離が大きい事業が一部に見られた。次期計画策定においても国の指針でニーズ調査を実施することとされた場合には、調査内容についてよく検討する必要がある。

(5)その他

・「子どもの広場」移転整備について

会 長 事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料4「子どもの広場」移転整備について】により説明】

地域子育て支援拠点事業を行う施設である「子ども広場」について、現在整備中の庁舎等複合施設「TERRACE沼田」の6階に移転整備する計画である。改修工事は平成30年12月末に完了予定、備品・遊具については、平成30年度予算で購入予定。移転後のプレイルームと保健福祉センターの4階ホールの広さが同じくらいであることを踏まえ、イベント「4階ホールで遊ぼう」の来場者にアンケートを実施するなど、ご意見をいただきながら、より良い施設となるよう進めていきたい。

会 長 利用は登録制か。

委 員 登録制でなく、親子連れであればどなたでも利用できる施設となっている。1日当たり平均利用親子組数は12組（平成28年度）であるが、多い日はもっと多くの人が集まる。食事時間を挟んで長時間過ごす方もいる。移転先では、インナーテラスを食事場所として開放したいと考えている。

会 長 遊ぶ場所と食べる場所は分けた方がいい。

委 員 プレイルームは広くなるが、柱があるので遊具の配置については検討が必要。前橋市の元気21では、遊具の老朽化に伴うメンテナンス費用を勘案し、平成30年度から利用料金を徴収することになったと聞いている。「子ども広場」においては、できれば無償で続けていきたい。メンテナンスの必要な大きな遊具はメインのもの1つにし、他は交換可能なものと考えている。遊具が多すぎると死角ができて危険な面もある。

委 員 渋川市の「だれでも広場」は、無料で土日も開設しているため、沼田市からも多くの人を訪れている。遊具はすべて寄附によるものと聞いている。高齢者も利用ができるため、自然に子どもの見守りができている。沼田市でも土日に利用できる施設があるとよい。

委 員 土日の開所や開所時間の延長を望む声は多い。開所日、開所時間についても検討していきたい。

委員	市外の人も利用できるのか。
委員	里帰り出産の場合など、市外の人も利用している。
会長	土日に開所した場合、委託料に影響があるのではないか。
事務局	開所日数等による基準で委託料が変わってくるので、費用面も考慮しながら検討していきたい。
委員	土日に開所すると、例えば、お父さんが子どもを連れてきて遊ばせている間に、お母さんが家事をしたり休んだりする、といった利用が増えてくるのではないか。
会長	他市の複合施設では、管理面で課題が発生しているという話を聞いている。理想と現実が違うということにならないよう、よく調整しながら進めていただきたい。 保健福祉センターについては、移転後はどのように活用するのか。
健康課長	現在検討中であるが、健康課、生活課の市民活動センター、社会福祉協議会は移転予定で、現在の建物に残るのは福祉作業所、デイサービス、障害児通所施設「アップル」の3か所のみとなる方向。乳幼児健診は引き続き保健福祉センターで実施する予定。貸館にするのがいいのか、別の団体に入ってもらえるのがいいのか、悩みながら検討しているところである。
委員	現在、保健福祉センター2階の機能訓練室を使用している「あかふうせん」や「和い輪いクラブ」などの子育てサロンは、引き続き同じ場所を利用することができるのかどうか、という疑問の声が出ている。また、乳幼児健診の前後に「子ども広場」を利用する人も多く、現在バスや徒歩で来て利用している人からも、保健福祉センターでも「子ども広場」を続けて欲しいという意見がある。
会長	子育て世帯のニーズを見極めながら、検討していただきたい。
	4 その他
会長	それぞれの委員さんから、子ども・子育てに関する意見等をお聞かせいただきたい。
副会長	専門委員会の委員長として関わり、提言書をまとめるところまでは実現したが、提言書ができたところで何も変わっていない、という現状である。少なくとも、提言書に書いてあることが、平成31年度までに実現できるよ

うに進めていきたい。そのためには予算が必要となる場合もあるが、専門委員会で検討し、子ども・子育て会議に諮り、市が事業を実施するといった形で、1つでも2つでも実現できるようにしたい。単に「提言書ができて良かった」で終わる話ではないことを、この場で確認していただきたい。

会 長 提言書を出してから1年が経過しているので、検証もしていきたい。

委 員 県の保健福祉事務所として直接実施している子育て支援は主に療育の事業であり、それ以外は市の子育て事業を支援する形となる。子ども・子育て会議を通じて要望をおききすることができればと考えている。

委 員 核家族化で学童保育の利用者が増え、車による登所支援のニーズも多くなっている。市で巡回バスなどを出していただけるといい。

委 員 児童人口の減少は、大きな問題である。子ども・子育て支援事業計画を沼田市のために考えていくべきと、ひしひしと感じている。

委 員 3歳児健診などで見ていると、言葉の後れや、多動で落ち着きがないなど、発達面で気になる子どもが増えていると感じる。発達の気になる子の支援が、国県の重点課題として出ている中で、当法人でも発達の気になる未就学児の預かり、小児の歩行や言語のリハビリを始めたところである。ニーズのあるところを重点的に進めていきたい。

また、当法人の保育施設では、混合保育として発達の気になる子どもと健常児と一緒に活動する時間を設けている。未就学の段階では、親が子どもの障害を認められないケースも多い。発達が追いついてくる子もいれば、障害を持ったまま成長していく子もいる中で、親の心のメンテナンスが重要となっている。社会的資源が限られている中で、サポートが必要な人をどのように見つけて支えていくのか、ということ、考える時期に来ていると感じている。できる限りお役に立ちたいと考えているので、色々ご相談いただき、一緒に考えていきたい。

委 員 出生数が300人を切っている中で、自分の子どもが将来ここに帰って来たいと思える場所をつくっていかねばならないと考える。そのためにはこの地域ならではの特徴を活かした取組を進めていく必要がある。

最もショックだったのは、事業計画見直し案のパブリックコメントの意見提出がなかったことである。全然期待がないのか。パブリックコメントの方法も問題なのではないか。これでニーズ調査をしてどうなのか、という懸念がある。もっと、地域の人の意見を採れる場所、採れる方法というのを考えていかないと、この会議も意味のないものになってしまうのではないか。

- 委員 発達の子になる子どもを学童で預かることが多い。学力がある子もいるので、保護者の中には「勉強はできるから大丈夫」という判断をする人もいるが、学年が上がるにつれ、身体的成長に伴いコミュニケーションが取れなくなってきて、行動に火がついてくることもあり私たちが対応する。やはり、親が認められないという問題があり、親の気持ちに寄り添えるような対応の仕方について、各学童の先生方も検討しながら取り組んでいる。
- また、そのような子どもを診断する病院は前橋方面に3か所しかなく、1か所は小2までしか看てもらえず、もう1か所は半年先まで予約が一杯と聞いている。障害が認められない場合には、障害児の加算を付けることが難しいため、現場においては、対応する先生を1人増やすのも大変である。
- また、学校行事の振替で月曜日がお休みとなる場合が多いが、図書館など月曜日が休みの施設が多く、連れて行く場所がない。連れて行く手段もなく、以前は社会福祉協議会でハイエースを借りていたが、学童は対象外ということで、現在は借りられなくなってしまっている。もし、車があればと考える学童も多いが、かと言って学童で車を所有するのも難しい。こうした課題にもご配慮いただきたい。
- 委員 里親として乳児を預かっていたときに保育園を利用していたが、病児保育が欲しいと感じていた。ニーズ調査では病児保育の利用希望が多いとのことであるが、利用しやすいかどうか、利用するのに手間がかからないかどうか。仕事をしている場合、職場にすぐに行きたいという状況の中で、利用方法が課題であると感じる。
- 委員 沼田市子育て支援ネットワーク推進協議会については、立ち上げ当初からチャイルドハウスめぐみや子ども課が参加している。今年度から、ちぐさこども園、NPO法人結いの家が参加している。NPO法人結いの家では、12月16日、1月27日、2月17日に落合新聞の2階で子ども食堂を開催し、毎回大盛況であった。3月31日には、沼須町の「恵の家」という高齢者施設の隣の借家で、子ども食堂と無料学習塾を実施することが決まった。場所の移転により、子ども食堂については調理設備などの課題が解消し、無料学習塾については今までの小学生に加えて中学生まで対象が拡大される予定とのことである。
- 委員 子どもの歯科口腔健診に携わっているが、虫歯の子どもは少なくなっていて、歯科口腔衛生が浸透してきたと感じている。一方でネグレクトなのか受診通知を出しても全く受診をしない家庭があり、子育て環境の二極化が根深い課題と感じている。
- 委員 少子化が進む中で、0歳児の底上げにより定員相当の児童数を維持している状況である。各園が連携し、園児の取り合いにならないようにしていく

必要があると考える。

また、就学児健診で初めて発達の遅れを指摘され、保護者が動揺するという事例を見ているので、4歳児健診又は5歳児健診がなるべく早く実現されることを望む。

委員

就学児健診は小学校入学前の10月以降に行われる。グレーゾーンの子どもは小学校入学までの間に再検査をすることになるが、再検査の期間が短く、検査に従事する人員も少ない、という現状がある。幼児教育に携わる方々に、先にスクリーニングしていただけると助かる、ということが言われている。

災害時の引き渡し訓練を小中学校が合同で実施する動きが、昨年度あたりからかなり進んでいる。小中学校に加えて、幼稚園・保育園等も、所管を超えて連携することにより、訓練に参加できるとよいのではないかと。

学校の先生の労働時間が長いという問題があり、小学校で30%、中学校で60%が過労死ラインを超えていると言われている。部活動について、土日のどちらかを休みにする、月曜から金曜までの1日は休みにする、といった改革が行われる方向である。そうした場合懸念されるのが、土日に部活がなくなった子どもたちの受け皿があるかどうか、ということである。保護者は、学校と先生に預けたいという気持ちが強いのではないかと。今後少子化により部活動が成り立たない学校も出てくる可能性がある中で、地域をまとめたセンター的なものを作り、学校の先生もそちらに指導に行けるようにする、といったことが、将来的な方向性として考えられているようである。

二極化の話が出たが、家庭環境により学力の二極化が進んでいるという現実は確かにあると感じている。また、自閉症やアスペルガーなどの子どもさんが、普通学級に入るのがいいのか、特別支援学級で個別の支援を受けるのがいいのかは、保護者の考え方により異なっており、療育支援がうまくいかない例はかなりあるのではないかと。インクルーシブ教育の流れではあるが、ただ集団に入れても難しい面があり、今後研修が必要な部分であると感ずる。

委員

自分自身が生まれつき弱視があり、小学校に入ってから健診でそれが分かり、眼鏡使用を開始したが、幼児期の健診で早めに分かるとういと感じた。

健診等で案内があったのかも知れないが、子ども広場の存在を知るまでに時間がかかった。インターネットによる方法など、周知方法の工夫が必要ではないかと。

委員

4か月健診のときに子ども広場の予定表を配布していると思うが、色々なものが配られるので分かりにくいかも知れない。現在分かりやすいパンフ

レットを作成中であり、完成したら産婦人科にも置かせていただく予定である。マタニティセミナーでも配布していただけるかどうか。

健康課長

配布可能である。

お話を聞いていて、課題が満載であると感じている。出生数は減っているが、気になるお子さんが多く、ひとり一人に時間がかかるため、夕方になっても乳幼児健診が終わらないという状況である。4歳児健診、5歳児健診が必要なのではないかと、というお話もあるが、小児科医、心理士の確保が難しく、すぐに手が出せない状況である。そうした中で、平成29年度は公立園を、平成30年度からは公私立全園を訪問し、就学に近い年齢の気になるお子さんの状況についてお話を聞かせていただき、先生方と連携していきたいと考えている。

来年度の全園訪問の先駆けとして、今年度は保育園等の先生方を対象に、気になるお子さんの対応の仕方について、障害者支援センターの仲丸先生を講師として研修会を開催したところ、予定を超える130人が集まり、「こういう研修を待っていた」という声をいただいた。今後も継続して開催したいと考えているので、ご参加いただき、ご意見をいただきたい。

平成29年度より宿泊型の産後ケア事業を開始したが、周知が行き届かないのか、利用が少ない状況である。本日のニュースでも18歳の母親が2歳児の首を絞めてしまったという事件が取り上げられていたが、母親の精神的なケアも重要と考えるので、今後も周知を図っていきたい。

会 長

課題が山積する中で、それぞれの持ち場でできることを進めながら、この会議で共有し、沼田市における全ての子どもたちが健やかに成長できるように必要な子育て支援を実現していきたい。

5 閉 会